

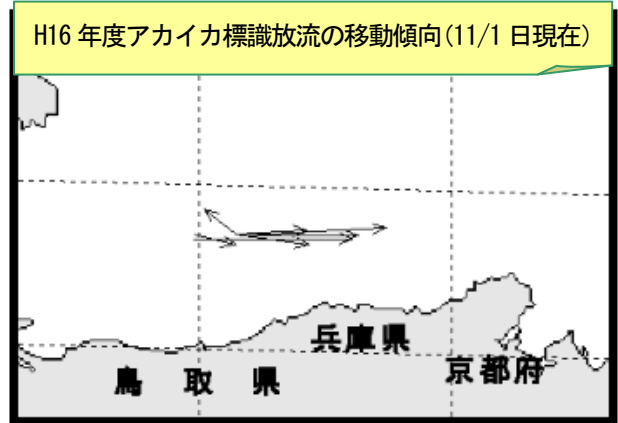
アカイカ情報

栽培漁業センターでは今年も漁業者の皆様とともにアカイカの生態解明に向けた調査を実施しています。さらには、兵庫県や近畿大学等、他の研究機関との連携も一層強くし、様々な調査を実施しています。

回遊生態解明に向けて

★標識放流調査★

昨年度、漁業者の皆さんが主体となり実施された標識放流調査ですが、今年も実施されています。今年度の標識放流調査は悪天候が続いたことや、思ったようにアカイカが獲れなかったこともあり、大変悪戦苦闘しておりますが、現在当センターが把握している標識放流個体数は115個体で、11月1日現在、7個体の再捕報告がありました（再捕率：6%）。移動傾向については昨年ほど顕著ではないものの、やはり**東方へ移動する傾向**があるようです



個体ごとの細かい動きを知るために

★新技術の導入★

通常の標識放流では放流地点と再捕地点の2つのデータしか得られません。そこで、兵庫・鳥取・近畿大学の共同で、2通りの方法で詳細な移動実態を把握する調査を実施しています。

①記録型標識放流

記録型標識には数分間隔で水深や水温が記録されています。アカイカが泳いでいた水深や水温帯について数日分のデータを得ることが出来るものと期待しています。

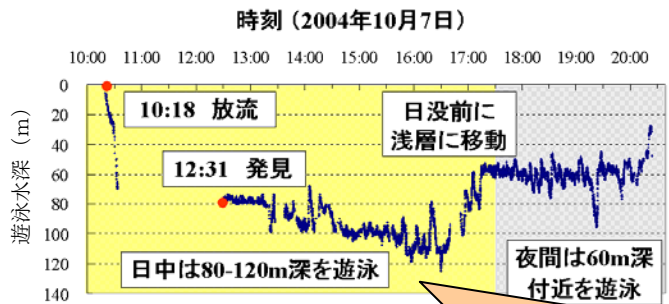


記録型標識を着けたアカイカ

見つけた方は当センターまで連絡下さい

②発信器調査

アカイカに発信器を装着し、船で追跡します。1個体についてのごく短期間の移動しか追えませんが、移動の速度や方向性などかなり細かい動きを知ることが出来ます。



発信器調査の結果 (10時間の追跡に成功)

昼間は80-120m、日没前に60m付近に浮上することがわかりました。

NEWS アカイカの卵塊が日本海で見つかる！！

10月29日に兵庫県浜坂町の定置網と香住町沖でアカイカの卵塊が見つかりました。太平洋側では発見記録がありますが、日本海でははじめての記録です。これにより、日本海でアカイカが産卵をしているという事実が確認されました。しかし、産まれた稚イカが寒い冬の日本海で生き残ることが出来るのか？？死んでしまうのか？？ということを知解明するには、さらなる研究が必要です。



日本海で発見されたアカイカの卵。発生が進んでいます。